

慶応義塾大学経済学部
日吉キャンパス

第1回（4月13日）
マクロ経済学初級Ⅰ

木曜日第1時限
担当者 白井義昌

教科書

クルーグマン マクロ経済学

ポール・クルーグマン／ロビン・ウエルズ著

(大山・石橋・塩澤・白井・大東・玉田・蓬田著)

東洋経済新報社 2009年

4800円＋税

keio.jp

講義情報

講義スライド

宿題

お知らせ

質問掲示板

成績評価

- 必修宿題 3 回をkeio.jpで提出
 - 3 回分すべて提出した者にのみ期末試験の受験資格をあたえる
(3 回分すべて提出したからといって単位を獲得できるわけではない)
- 期末試験の結果で成績を評価 (A, B, C, D) する

宿題スケジュール

	掲示日	提出日
第1回宿題	5月11日	5月18日
第2回宿題	6月8日	6月15日
第3回宿題	7月6日	7月13日

本日の講義

「経済学とは何か？」

「経済」(Economy)とはなにか？

「市場経済」と「みえない手」(invisible hand)
市場の失敗

ミクロ経済学

好況、不況、恐慌
経済成長と技術進歩

マクロ経済学

経済学者の考察方法

- 理論分析 解明経済学と規範経済学
- 実証分析
- 実験

「経済」とはなにか？

経済（Economy）とは
社会の生産・消費活動を調整するシステム

経済学とは
個人のレベルと社会全体のレベルの
両方の視点で経済を考察する学問

市場経済

個々の生産者（企業）や消費者が
生産や消費の決定を行う経済

- 生産者や消費者が自由に取引を行う場が市場
- 市場を通じて生産や消費が調整される

逆に中央当局が生産や消費を決定する経済は「計画
経済」と呼ばれる

旧ソ連

改革開放前の中国

市場経済の働き：みえざる手

市場経済では
個人の自己利益追求が
（あたかもみえざる手に導かれて）
社会全体のために良い結果をもたらす可能性がある

Adam Smith (1776)

An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations,
Book IV, chapter II, paragraph IX

“...he intends only his own gain, and he is in this, as in many other cases, led by an **invisible hand** to promote an end which was no part of his intention. Nor is it always the worse for the society that it was not part of it. By pursuing his own interest he frequently promotes that of the society more effectually than when he really intends to promote it.”

市場経済のはたらきが うまくいく理由

世の中のニーズや不都合

一番解決能力（技術）のある者（企業）がそれに対応することで便益を生み出す

その便益を当事者で分かち合う

重要な要件

- 自由
- 機会の均等
- 生み出された便益を回収し解決にかかった費用を補償するしくみがある

個人の行動が生む個人的便益と個人的費用

個人の行動が生む社会的便益と社会的費用

これらが合致しているとき市場経済はうまく働く

市場の失敗

個人の自己利益の追求が社会全体に悪い結果をもたらす場合

例

天然資源の乱獲

大気や水質の汚染

個人の行動が生む個人的便益と個人的費用

個人の行動が生む社会的便益と社会的費用

これらが合致していないとき

市場経済が失敗する

ミクロ経済学

人々や企業がそのように意思決定をし、その意思決定が相互にどう作用するかを学ぶ経済学
の分野

生産と消費を調整するさまざまな経済システム
を考察する

さまざま取引システムを考察

市場

契約

組織

好況と不況

1 国全体（または世界全体）で経済活動が
順調な時期「好況期」とそうでない時期
「不況期」がある

戦後の大きな不況

- 1973年 第1次石油ショック（16ヶ月）
- 1980年 第2次石油ショック（36ヶ月）
- 1985年 円高不況（17ヶ月）
- 1991年 バブル崩壊（32ヶ月）
- 1997年 金融危機（20ヶ月）
- 2008年 リーマンショック（13ヶ月）
「大不況」 the Great Recession

マクロ経済学の課題 長期の問題

経済成長

経済が財・サービスを生産する能力の増加

- 20世紀に先進国は急速な経済成長を経験した
- 20世紀末から21世紀初頭に新興国も急速な経済成長を経験した

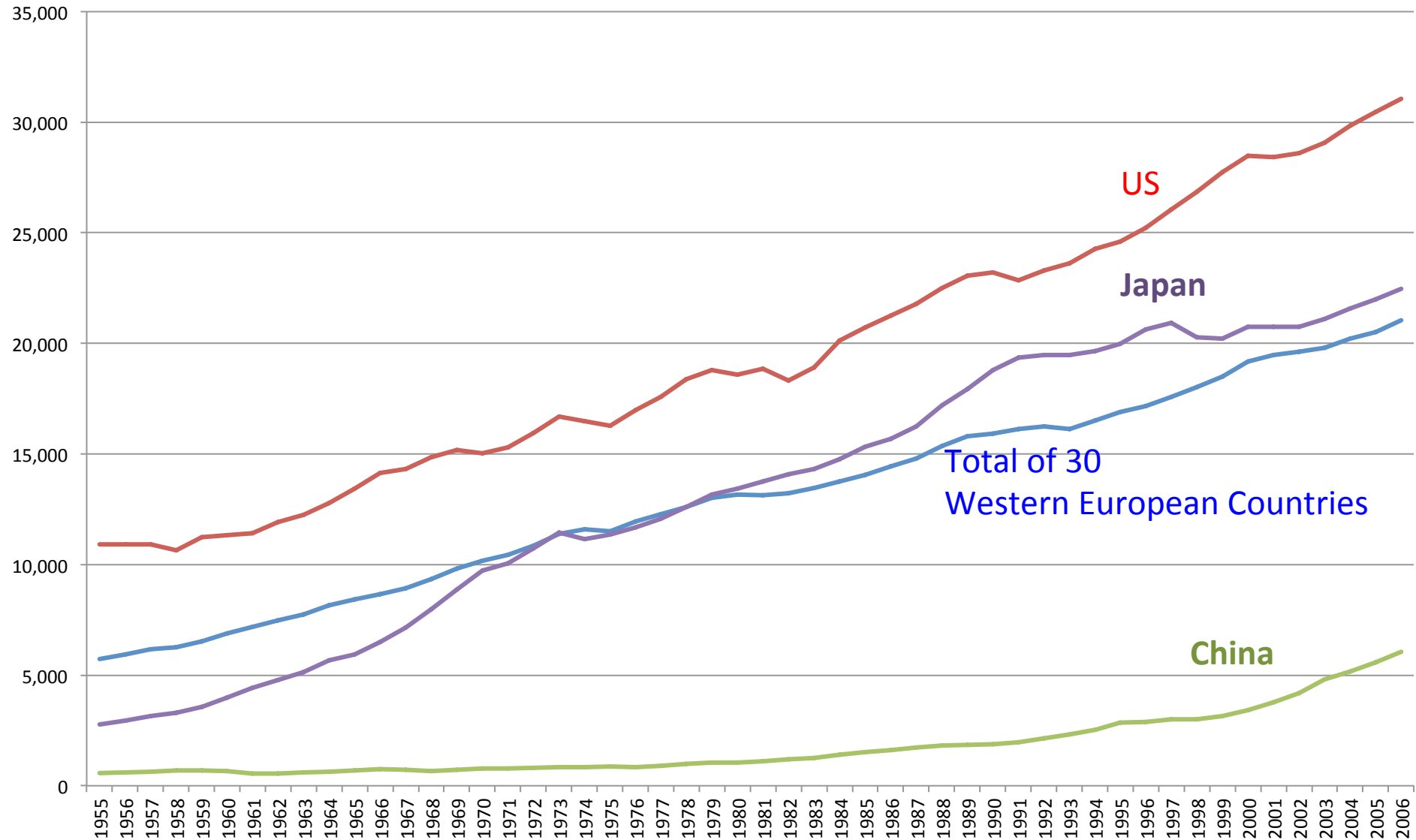
gapminder

http://www.gapminder.org/tools/#_locale_id=en;&state_time_delay:208;.&chart-type=bubbles

Per Capita Real GDP of US, Japan, China, and 30 Western European Countries

Source: Angus Maddison, Statistics on World Population, GDP and Per Capita GDP, 1-2006 AD, <http://www.ggdc.net/maddison/>

1990 International Geary-Khamis dollars



マクロ経済学の課題 長期の問題

経済成長

経済が財・サービスを生産する能力の増加

- 20世紀に先進国は急速な経済成長を経験した
- 20世紀末から21世紀初頭に新興国も急速な経済成長を経験した

なぜ経済は成長するのか？

なぜ経済成長はある時期、ある地域で他の時期、他の地域にくらべて急速に進むのか？

経済学者の考察方法

科学的アプローチ

リサーチクエスション（問い）

方法（問いに答えるための具体的な方法）

結果

方法

- モデルを使って考える（理論分析）～推論
- データ分析をする（実証分析）～推論の証拠
- 実験

経済学の特徴

- 解明経済学 positive economics

経済現象を叙述する、説明する
経済のメカニズムの理解

- 規範経済学 normative economics

経済状態についての価値判断をする
(効率性、公平性)

経済のあるべき姿を叙述する
経済政策の基礎

第1回講義の宿題予告

- Milton Friedman のビデオ講義
“I price and price system” を観て
「価格システムを通じて世界中の人々が図らずも協力しあうまたは共同作業をするのはなぜか？」
についてFriedmanの説明をまとめなさい。

<http://www.criticalcommons.org/Members/fsustavros/clips/cse-1-6-friedman-i-pencil-and-price-system-1/view>

参考文献

Leonard Read (1958) “*I pencil*” Foundation for Economic Education.

<http://fee.org/library/detail/i-pencil-audio-pdf-and-html>

参考動画

Milton Friedman (1980) “Power of Market” *Free to Choose*.

<https://www.youtube.com/watch?v=ZOpthS61AVg>